

2019.3.9 ワールドカフェまとめ

検討課題① リハビリにおける自立とは

ADL・IADL

- ・医療の視点では通院～支払いまでできること。
- ・ひとそれぞれであるが、一人で生活ができています。
- ・以前の生活に戻ること。
- ・リハの**目的が達成**されたとき。
- ・利用者の負担が減り、意欲が出て、見守りで生活ができる。
- ・身の回りのことができる。何かの支援を受けながらも生活ができる。
- ・本人、家族が設定した望む暮らしができた時。
- ・何もサービスを利用していない。
- ・目標が明確になっていないので今の生活を維持することだけでは自立につながらない。
⇒明確な目標や評価が必要。
- ・口腔ケアが自分ででき、食事が摂取できる。
- ・嚥下に関することが低下すると要介護になりやすい。
- ・リハに行けない人は何でいけないのかアセスメントすることが必要。
⇒送迎サービスがないので続けることができない。
- ・生活課題を達成すること。
- ・退院して自宅で生活ができること。
- ・認知症の方でも、一つでも自分で判断ができること。
- ・独居の方、一人でゴミ出し、掃除ができること。
- ・介護保険でいう自立。
- ・介護保険の評価（要介護⇒支援）が下がること。
- ・卒業が困難な人、現状維持ができること。
- ・一人暮らしの人、定期的な見守りで生活できる。
- ・生活が困難な人、工夫してできるようになること。
- ・日常生活の管理・食事、服薬、楽しいことが可能。
- ・評価としての自立。各個人の自立。
- ・リハ導入時の関りが大切。リハがなくなることの不安解消や介護度評価と本人の認識のギャップ解消。
- ・自立するためには精神的・肉体的要素が必要。

- ・誰がいつ卒業を告知するのか。そのために必要な情報交換・共有がされているのか。
- ・必要な人に必要なリハが提供されているのか。審判は誰が行うのか。
- ・医師が必要と思っていることが紙面だけではわかりにくい。
 - ⇒連携、カンファレンス実施の必要性。
- ・痛みが取れば。
- ・リハをする前になること。なかなかその状態には持っていけない。
- ・セルフケアができています。
- ・誰かに助けてもらいながらも生活が問題なくできていること。
- ・その人がその人らしく安心して生活ができる。
- ・ADL、IADL できていること。
- ・個々に応じた**目標設定**のこと。
- ・個々の目標達成のこと。
- ・社会資源等を本人が使いこなして生活ができる。
- ・介護度が下がったり、利用サービスが減ったり、地域資源で可能になったりする。
- ・ケアプランが終了した時。
- ・誰かの手を借りても自分で生活ができる。
- ・人の手を借りずに生活ができる。
- ・サービスの利用が減少する過程。

社会参加

- ・社会参加までを求めるのは難しいかな。
- ・コミュニケーションが苦手、高齢になればなるほど、地域でみるのも難しい。
- ・社会資源を使えること。
- ・社会参加できれば。
- ・ADL、IADL、社会参加できていること。
- ・コミュニケーションができる。

自律

- ・心の自律を自立とみなす。
- ・フレイル、精神的な安定。その人の意見を聞いていく。精神的なところが重要。
- ・自分が自立しているとイメージできている人。
- ・サービスを楽しみ精神的にアップして続けていっていいと思っている人。
- ・リハは生活の中において自分でやることと考えていない。また、ずーっと続けてくれるものと思っている。本人の理解が不十分。
- ・自分のマインドの部分。
- ・自分で清潔が保てる、生活ができていると思える状態。

- ・必要な資源が**自己決定**で利用できる状態。
- ・本人の意思次第。**本人の納得**が得られているか。
- ・リハをして元の生活ができていれば自立と思われるが、**自己決定でき自己選択できる**生活。
- ・見捨てられた感がなく、安心していただけるかどうか。
- ・認知症があっても一つでも自分で決めることができる。
- ・その年齢なりに生活ができる。うれしいと思うことができる。